

ウェルビーイング(身体的・社会的に健康である)の観点から次のようなことが分かった。  
世界の2024年の幸福度ランキングについて日本の結果が次のようであった。

2024年版世界幸福度ランキング(143か国中)で1位はフィンランド、2位はデンマーク、3位はアイスランドで、日本は51位。また、日本の中で静岡県は41位(47都道府県中)静岡県の中で御前崎市は9位(35市町中)。(前年度は26位)  
(参考資料;国連の持続可能な開発ソリューションネットワークより)

世界幸福度の評価は、各国・地域の人々に「人生に対する評価」について質問しその回答に基づいて行われている。

これは、

「自分にとって最高の人生を10」「自分にとって最悪の人生を0」として、0から10までの11段階の点数で自分の人生を評価してもらい、その評価から各国・地域の幸福度を算出している。

したがって、世界幸福度報告における幸福度とは、各国・地域の人々が「どれだけ自分の人生に満足しているかの程度」と言い換えることができる。

また、2023年のユニセフの報告では幸福度ランキング先進国38か国の子どもを対象にした調査がある。

①精神的幸福度(生活満足度、青年期の自殺など)

②身体的幸福度(乳幼児死亡率、過体重=肥満度など)

③スキル(学力=読解力・数学分野、社会的スキル=学校で容易に友達が作れる子どもの割合)の3つの分野で調査しており、

38か国中で、精神的幸福度(37位)

身体的幸福度(1位)

スキル(27位)

総合ランキングでは20位という結果であった。

2024年統計 「青年の自殺数」  
小中高生過去最多

上記の結果から、

身体的幸福度については、

医療の発達などから乳幼児の死亡率は低い。大人の肥満度は高いが世界の子どもと比べると低いことがわかる。

精神的幸福度については、

子どもたちを取り巻く環境の中に問題があると考ええる。

では子どもの幸福度を上げていくためには、多くの人と接する過程の中でどのようなことが重要であるかという、

①「子どもの主体性の尊重」・・・子どもが自分らしく、主体的に行動できる機会を多く設けることが幸福度の向上につながっていく。

- ②「自己肯定感を伸ばす」・・・・・・ 自己肯定感は主観的幸福度の「自己実現と成長、やってみようという意識」などの要因と深く関わっていく。

具体的には、

- ①子どもたちの声に耳を傾けること
- ②学校以外の地域での取り組みの充実

というように、子どもたちが生き生きと生活するためには、子どもたちの力も大事であるが、子どもたちをとりまく家庭や地域の大人たちのかかわり方が大事である。

令和6年度の第1回御前崎市スクラムスクール運営協議会では子どもたちの姿などを中心に話し合いを進めてきた。原点に戻れば、御前崎特有のスクラムスクールという言葉にさらに意識し、スクラムという強い絆を大事にする市を目指していきたい。

そこで、今回第2回目の話し合いでは、

- ① スクラムを意識し、本年度の活動を振り返る
- ② 第1回目の話し合いを参考に、スクラムとは何かを見直す
- ③ スクラムを組むよさの中から「スクラムとしてこんなことができるのでは」をふまえながら話し合う

という3つの視点で協議する。

令和6年度 第1回

現代の子どもの姿

{ 経験が少ない  
主体的な活動をしてほしい  
自信を持ってほしい  
(※前回のまとめ 別紙参照) }



令和6年度 第2回

本年度の活動の振り返りと次年度に向けて